

大会を文化の祭典としても成功させ、 「世界一の文化都市東京」を実現します

4

- オリンピック・パラリンピックはスポーツのみならず文化の祭典でもあり、東京そして日本の魅力的な文化を国内外に発信する絶好の機会となります。
- 東京2020大会に向けて、アーティストや企業などの多様な主体、そして教育・福祉・地域振興など多分野間での幅広い連携のもとで取組を進めていきます。
- 2016年リオデジャネイロ大会後には、これまでにない多彩で魅力的な文化プログラム*を展開し、伝統と現代が融合する独自の文化を世界に伝えていきます。
- また、パラリンピック開催を契機とした共生社会づくりを進める中、あらゆる人が芸術文化を享受できる社会基盤を構築し、文化面でも世界で最もバリアフリーな都市を目指します。
- そして、東京が持つポテンシャルを最大限に活用し、海外との交流を一層推進することで、東京の芸術文化の魅力を世界に発信し、「世界一の文化都市東京」を実現していきます。

2020年に向けた取組の方向性

1 これまでにない多彩で魅力的な史上最高の文化プログラムを展開します

文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトを推進するとともに、様々な主体が連携・参加し、これまでにない先進的な文化プログラムを展開します

主な取組

- ・文化プログラムをけん引するシンボリックな事業を展開
- ・公募等に基づき様々な主体の新たな発想を取り入れた事業展開を促進
- ・海外との交流を推進し、国際的な発信力を強化
- ・東京と全国各地が連携し、オールジャパンとしての魅力を向上

2 あらゆる人が芸術文化を享受できる社会基盤の構築を進めます

アール・ブリュット*の普及推進など、パラリンピック開催を通じた共生社会づくりと連動し、文化の面でも世界で最もバリアフリーな都市として認められるよう取組を推進します

主な取組

- ・自治体、大学、福祉施設、NPO等との連携によるアール・ブリュットの普及推進や制作・交流・展示のための拠点の形成
- ・学校、児童館、公民館等、地域の様々な場所において芸術文化を体験できる機会を創出
- ・アーツカウンシル東京*によるアートNPO等への活動支援
- ・文化施設におけるバリアフリー化、開館時間の延長、多言語対応、無料Wi-Fi環境整備など時代のニーズに即した来館者サービスの向上

3 東京の持つポテンシャルを活用し、芸術文化の魅力を世界に発信します

多彩な文化拠点や最先端技術と芸術文化の融合など、東京のポテンシャルを最大限に活用するとともに、国際的な発信・交流を強化します

主な取組

- ・芸術文化資源の集積を一層推進して、地域の個性を生かした文化拠点を形成し、地域活性化策や観光施策と連携した取組を推進
- ・海外の芸術文化団体や文化施設との連携による、国際的な発信・交流を強化
- ・テクノロジーとアートを融合させたコンペティションを実施
- ・キュレーター*やアートディレクターなどの芸術文化を支える人材を育成

1 これまでにない多彩で魅力的な史上最高の文化プログラムを展開

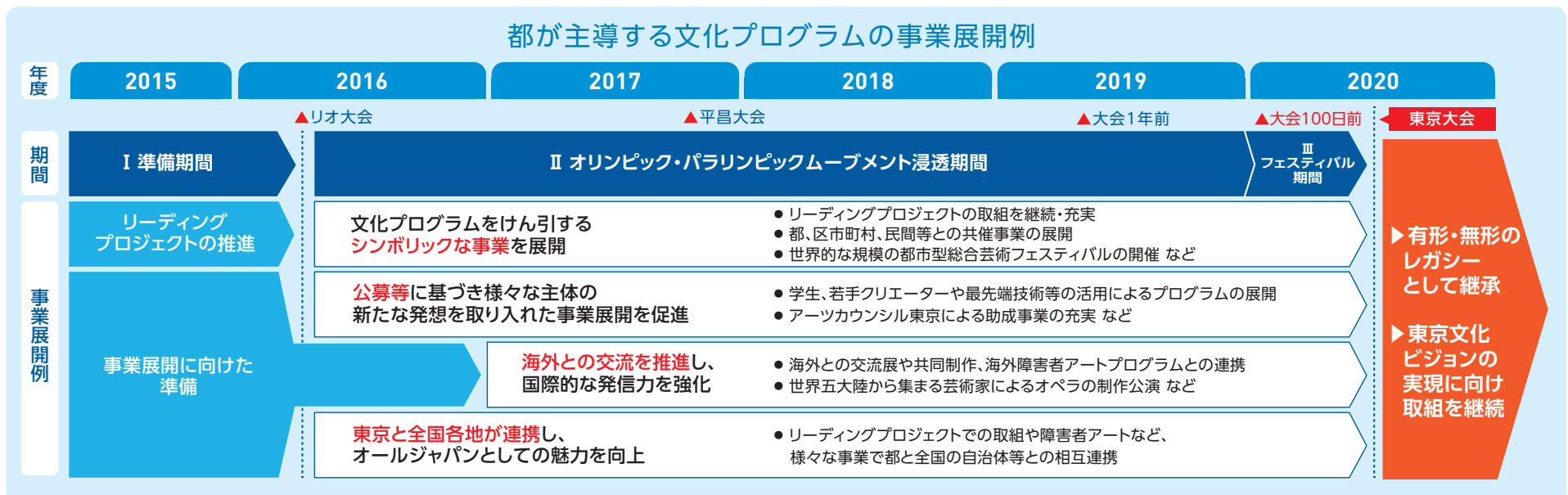
2020年に向けた取組の概要

○文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトを推進

- 伝統芸能や演劇、音楽など様々な分野の芸術家が、ベテランから若手まで一堂に集結する「東京キャラバン*」を、リオデジャネイロ大会開催地や日本各地で展開する。
- 障害者と健常者がともに制作活動を行う「障害者アートプログラム」を実施する。
- 外国人や子供を対象に伝統文化の普及を図る「伝統文化芸能体験プログラム」を展開する。

○様々な主体が連携・参加し、これまでにない先進的な文化プログラムを展開

- 美術館・博物館、劇場ホールをはじめ、都市のあらゆる空間を活用するとともに、多彩な芸術文化を、高齢者、障害者等のあらゆる人々が日常生活の中で体験できるプログラムを実施していく。
- 文化プログラムをけん引するシンボリックな事業を展開
- 公募等に基づき様々な主体の新たな発想を取り入れた事業展開を促進
- 海外との交流を推進し、国際的な発信力を強化
- 東京と全国各地が連携し、オールジャパンとしての魅力を向上



2 あらゆる人が芸術文化を享受できる社会基盤の構築

2020年に向けた取組の概要

○アール・ブリュットの普及推進

■ 現状調査や専門家等の意見を踏まえたうえで、自治体、大学、福祉施設、NPO等の地域の関係者と連携して、アール・ブリュットの普及推進を都立文化施設等において行うとともに、制作・交流・展示のための拠点を形成する。

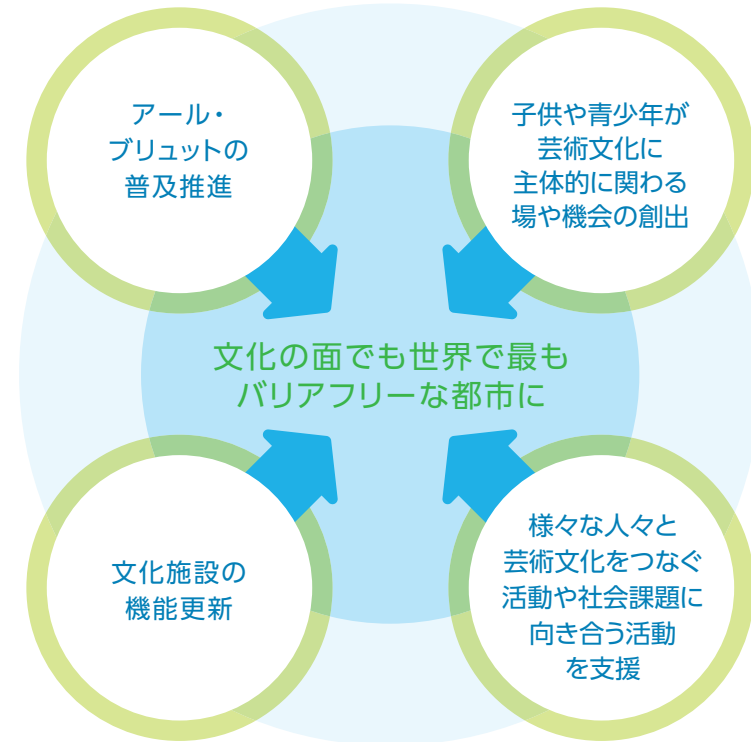
○子供や青少年が芸術文化に主体的に関わる場や機会の創出

■ 学校、児童館、公民館等、地域の様々な場所において芸術文化を体験できる機会を創出する。

■ 都立文化施設において、子供たちが芸術文化を体験するワークショップ等を積極的に展開していく。

○障害者や高齢者など、様々な人々と芸術文化をつなぐ活動や芸術文化を通じて社会課題に向き合う活動を支援

■ アーツカウンシル東京によるアートNPO等への活動支援を行う。



○文化施設の機能更新

■ バリアフリー化、開館時間の延長、多言語対応、無料Wi-Fi環境整備など時代のニーズに即した来館者サービスの向上を図る。

■ 都が主導しポータルサイトを構築するなど、都内文化施設等の展覧会や公演情報を集約、発信していく。

■ 国内外から来館者を惹き付ける広域的な取組を推進する。

3 東京の持つポテンシャルを活用し、芸術文化の魅力を世界に発信

2020年に向けた取組の概要

○ 多彩な文化拠点を際立たせ、東京全体の魅力を向上

■ 芸術文化資源の集積を一層推進して、地域の個性を生かした文化拠点を形成し、地域活性化策や観光施策と連携した取組を推進する。

● 上野
日本屈指の文化施設の集積を生かして「文化の杜」新構想*の事業を推進

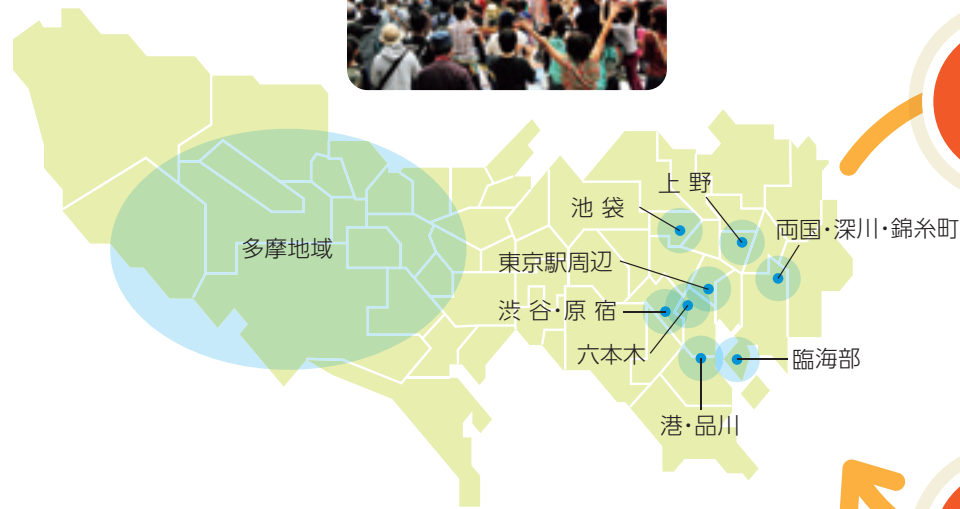
● 池袋、渋谷・原宿、六本木、両国・深川・錦糸町、港・品川、臨海部等文化的な特徴を有し、若者や外国人観光客からも人気が高い街の発信力強化や、今後大規模開発が進む地域における文化的魅力の向上

● 多摩地域
伝統文化や芸術系大学の集積を生かし地域を振興

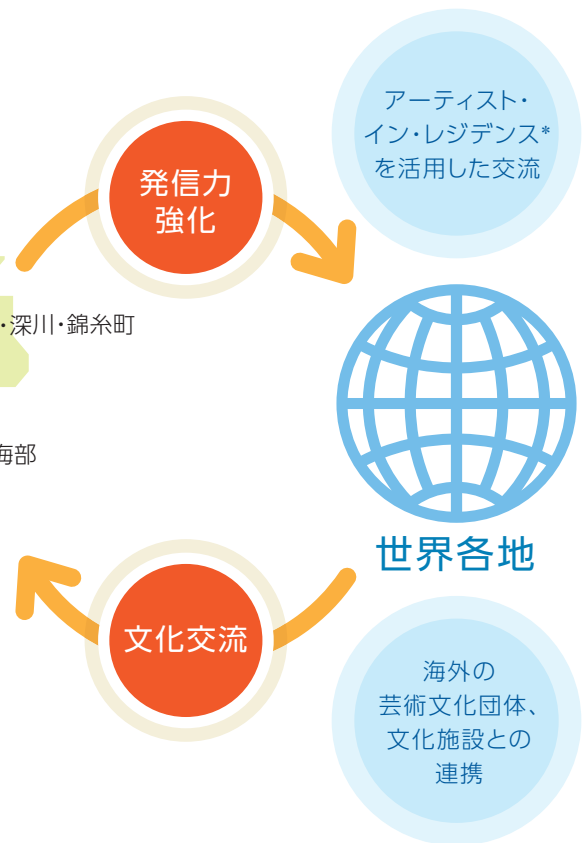
文化拠点の魅力向上



フェスティバル/トーキョー14
『フェスティバルFUKUSHIMA!@池袋西口公園』
撮影：菊池良助



六本木アートナイト2012の様子
©六本木アートナイト実行委員会



○ 海外との文化交流を推進し 国際的な発信・交流を強化

■ 国内外のアーティストをより多く受け入れるため、アーティスト・イン・レジデンス事業の推進など、制作・発表の場の充実を図る。

■ 海外の芸術文化団体、文化施設との連携による事業を展開する。

- ・障害者アートをはじめ、2012年大会の開催地であるロンドンとの連携
- ・北京やベルリンなど海外の文化施設と連携した展覧会開催
- ・世界都市文化会議など国際的な芸術文化カンファレンスの誘致や開催支援

○ 最先端技術と芸術文化の融合

■ テクノロジーとアートを融合させたコンペティションを実施するなど、最先端技術を活用した新たな芸術表現の発表の場の充実を図る。

○ 芸術文化を支える人材の育成

■ 新進若手芸術家が才能を開花させ、世界を舞台に活躍できるよう、アーティスト・イン・レジデンスの活用や若手芸術家を対象とした展覧会開催、民間の顕彰事業との連携等による支援を推進する。

■ キュレーターやアートディレクターなどの芸術文化を支える人材を育成するため、企業や芸術系大学、NPO、芸術文化見本市等と連携し、育成カリキュラムの作成や相互交流等を進め、市場の創出や販路の拡大にもつなげていく。



第7回恵比寿映像祭 展示より
久野ギル《Haze》2012
写真：新井孝明 提供：東京都写真美術館